

「地域脱炭素に向けた官民一体の分散型エネルギーマネジメント - コモロモデル」
令和3年度「新エネ大賞」にて
資源エネルギー庁長官賞 受賞

一般財団法人「新エネルギー財団」が主催する「新エネ大賞」において、下水熱を利用した産官学一体の取り組みが表彰されました。

■新エネ大賞 とは

新エネルギー等に係わる機器の開発、設備等の導入、普及啓発、分散型エネルギーの活用及び地域に根ざした導入の取り組みを広く公募し、厳正な審査の上、表彰することを通じて、新エネルギー等の導入の促進を図ることを目的として、一般財団法人新エネルギー財団が主催するものです。

令和3年度「新エネ大賞」については、60件の応募に対し20件が表彰を受けました。

■地域脱炭素に向けた官民一体の分散型エネルギーマネジメント - コモロモデル

小諸市は、「コンパクトシティ構想」とともに、地球温暖化防止への対策として「低炭素まちづくり計画」を策定し、市民生活を支える持続可能で活力あるまちづくりを目指しています。

「コンパクトシティ構想」の中核である市庁舎と浅間南麓こもろ医療センターを一体敷地に新築する経過において、小諸市とJA長野厚生連は、「エネルギーの相互利用」を含む「エネルギー利用に関する協定」を締結し、協定に基づくエネルギーサービス事業者である(株)シーエナジーは、利用形態の違う2施設を一体でエネルギーマネジメントすることで熱融通などの効率的な運用を実施しています。

また、再生可能エネルギーの活用として国内で初めてとなる民間事業者による公共下水道管路からの下水熱利用を実現し、全国的に老朽化が進む下水道管の再生と下水熱利用料金の設定による行政コストの削減につながり、重要な社会インフラである下水道施設の維持にも貢献しています。

■受賞に伴う評価

改正下水道法が施行され、民間が下水道管内を流れる下水から熱を回収することが可能となった。本事業は法改正後、最初の実施例であり、採熱した熱は、ヒートポンプの熱源として病院向けの給湯の加熱に利用されるシステムとなっている。

産官学一体(株)シーエナジー、JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター、信州大学、(株)石本建築事務所、小諸市)となつての取り組みであり、下水道熱利用を実現し他の自治体への波及も大いに期待できるモデルとして高く評価されました。



受賞に関する詳細は[コチラ](#)→

■問い合わせ先

小諸市役所 下水道課 担当：大池 孝生
Tel 0267-22-1700 (内線 2260) Eメール gesui@city.komoro.nagano.jp